

熱工学コンファレンス 2016 開催報告

実行委員会 委員長 愛媛大学 野村信福

今年度の熱工学コンファレンスは、国立大学法人愛媛大学城北キャンパスにて、平成28年10月22日（土）と23日（日）の2日間にわたって開催されました（写真1）。

四国での開催で参加者が激減するのではないかと心配していましたが、学術講演233件、参加登録者413名と、多くの皆様にご参加いただきました（写真2）。懇親会登録参加者も157名と大盛況

のうちに終わることができました。ご参加いただきました皆様方には、心よりお礼申し上げます。

本コンファレンスでは、オーガナイザーの皆様のご尽力により、13のオーガナイズドセッション（OS）、および9の一般セッションを9室の平行セッションで開催しました（写真3）。今年度は、例年コンファレンス前日に開催していた熱工学ワークショップをコンファレンス初日にランチョンセミナー形式ですべてのセッションの時間を空けて12:00~14:00で実施しました（写真4）。そのため2日目の午後に最終セッションを開催する必要が生じました。翌日が月曜日でしかも地方開催ということで、早く終了したほうがよいという考えから、少し強引ですがセッションを詰めて、最終セッションを2日目の12:00~13:00の時間帯で組みました。大きな混乱もなくコンファレンスは盛況裡で終わることができました。セッションをまとめていただきました座長の皆様に、あらためまして御礼申し上げます。

前回の大阪大学でのコンファレンス同様に機器展示を開催させて頂きました。三浦工業株式会社ならびに日本カノマックス株式会社にご協力頂きました。ご関係の皆様方に心より感謝申し上げます。

第1日目のセッション終了後、愛媛大学グリーンホールにて部門賞および一般表彰贈呈式がとり行われました。実は、このグリーンホールは9月に座席数を増設する改修工事を実施しており、その関係で壇上部分と座席間の通路が狭くなっていました。部門表彰および特別講演では少々狭くてご不便をおかけしました。永年功績賞を受賞された門出政則先生から受賞者を代表してご挨拶を頂きました。その後、愛媛大学地球深部ダイナミクスセンターの入船徹男先生から、「高温・超高压を利用した透明ナノ



写真1 熱工学コンファレンスプログラム表紙
<http://www.jsme.or.jp/conference/tedconf16/>



写真2 熱工学コンファレンス受付の様子



写真3 講演会場の様子



写真4 熱工学ワークショップの様子

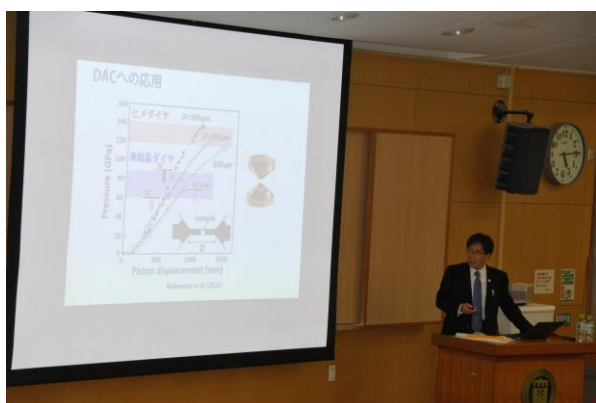


写真5 愛媛大学 入船徹男 先生による特別講演



写真6 国際ホテル松山での懇親会

セラミックスの合成」と題した特別講演が行われました。通常の単結晶ダイヤモンドより固いヒメダイヤモンドの合成秘話から、日本沈没のモデルとなった理論の話、単結晶に匹敵する高い透過性を持つナノ多結晶ガーネットの合成成功に至る最新の話題に関するまでウイットに富んだご講演を頂きました（写真5）。

夕方より、国際ホテル松山で懇親会が開催されました（写真6）。実行委員長の小職からご挨拶させて頂いた後、国際功績賞を受賞された東京工業大学の佐藤勲先生から、ご挨拶頂き（写真7）、熱工学部門長の花村克悟先生の乾杯のご発声で懇親会が始まりました（写真8）。懇親会の中ごろには、第9回日韓熱流体工学会議の Vice Chairである東北大学の丸田薫先生から開催案内を頂いた後、再度、花村先生から、熱工学コンファレンス2018の案内を頂きました。来年は、10月に日韓熱流体工学会議が沖縄で開催されるため熱工学コンファレンスは開催されません。次回の熱工学コンファレンスは再来年の2018年に富山で開催される予定です。

懇親会では催し物として、松山市指定無形民俗文化財である伊予万歳（祝福芸）が披露されました。この踊りは17世紀に松山藩主松平定行が愛知県の「知多万歳」を招いたことに始まるといわれています。松山市の別府二葉会6名の踊り子による扇の舞が繰り広げられました（写真9）。最後に、山口大学の加藤泰生先生に中締めのご挨拶を頂いて懇親会を閉会とさせて頂きました（写真10）。愛媛大学は松山内中心部に位置し、懇親会会場まで徒歩で移動が可能です。ホテルから市内の繁華街が近く、懇親会終了後も松山の地酒や料理を堪能して頂いたのではないかと思います。

今回から、学会参加登録費などをクレジットカード決済する方法を採用しました。このために参加費を1000円値上げしました。現金を受付で取り扱う業務がほとんどなくなり、日本旅行の協力もあって、大きな混乱はなくスムーズに運営することができました。しかし、『懇親会』の領収書記載に若干の誤りがあり、ご迷惑をおかけしました。記載ミスがあった参加者の皆様には謹んでお詫び申し上げます。

愛媛県では2017年に国体が開催されることもあって、ホテルが幾つか新設され、松山市は大きな学会を十分開催できる規模に



写真7 国際功績賞を受賞された東京工業大学
佐藤勲 先生



写真8 熱工学部門長 東京工業大学 花村克悟 先生

なってきました。道後温泉が国体終了後に改修工事に入ることもあって、観光客増加とともに人気の学会開催地となっています。観光資源が豊富なことはもちろん、ゆるキャラの、「バリィさん」や「みきゃん」の地元ということもあって、愛媛大学でも、頭文字「e」と愛媛みかんを組み合わせマスコット「エミカ」を作っています。今回は懇親会参加のネームプレートにシールを貼らせて頂きました。また、休憩室には松山市から2km離れた瀬戸内海に浮かぶ興居島で作られた「みかん」を準備させて頂きました(写真11)。冬になれば、愛媛県には「いよかん」をはじめ、「せとか」や「紅マドンナ」などの従来の柑橘のイメージを覆す、おいしい食材が堪能できます。是非、この学会を機会に再度、「みかん」の季節に愛媛県にお越し下さい。

最後に、熱工学コンファレンス 2016 の実行委員会の幹事をご担当頂きました愛媛大学中原真也先生、講演プログラムとwebサイトの取りまとめを頂きました、向笠忍先生、岩本幸治先生、会場担当の取り纏めを頂きました、豊田洋通先生、展示の企画を頂きました朱霞先生をはじめとする実行委員会の皆様、ならびに会場担当を頂きました松下正史先生、青山善行先生、保田和則先生、実行委員会学生の皆様に心より御礼申し上げます。



写真9 懇親会の様子 (伊予万歳と松山の地酒の紹介)



写真10 山口大学 加藤泰生 先生の中締めのご挨拶



写真11 興居島 (ごごしま) みかんと「えみか」